

マリア マグダレナさん

川島記念学術賞・3面参照

インドネシア・ジャワ島のスラバヤ市出身。カトリック系の高校を卒業後、外国で学ぶことで自分を成長させたいと5年前に日本に留学しました。

専大入学前、日本語学校で鍛えられたつもりですが、授業についていくのは大変でした。毎日講義のレジュメを独自に作り、「書く」訓練で日本語の力をつけていきました。

外国人就職・転職サポート会社でインターンシップをした縁で、その会社ですっとアルバイトを続けました。専大の学術奨学金を4年間いただいたことも大きな励みに。

「書く」訓練 日本語力向上

川島賞には驚いています。授業に出て講義を聞き、試験勉強をする……その繰り返しで4年間で特別なことはしていません。私を留学生としてではなく、専大の一人の学生として接してくれた先生方や友人に感謝しています。

藤中 謙也さん

川島記念体育賞総代・3面参照

バレーボール好きの両親に勧められ小1からボールを追ってきました。バレーボールの魅力は、メンバーが心を一つにしてボールをつなぐこと。目立たなくてもそれぞれ役割があり、個人の方だけで勝つことはできません。

攻守に強く「五輪」目指す

東日本大学選手権の専大初優勝(2014年6月)は、みんなの勝利への強い思いがボールに込められた成果です。主将としてチームをまとめる役割を担いましたが「もっとこうすればよかった」という反省はばかりです。全日本男子チームのメンバーになり、多数の海外試合に参加したのも貴重な体験でした。

身長190センチは男子バレーでは小柄ですが、目指すはレシーブにもブロックにも強い攻守に優れたウイングスパイカー。リオ、さらに東京五輪を目標に挑戦を続けたい。

近藤 菜摘さん

マーケティング学科、見目洋子ゼミ、神奈川七里力浜高II永谷園

中学から始めたバレーボールは、ずっとセッター。一人ネットに背を向け、選手全員の動きを見ながら攻撃を組み立てるポジションを大学の同好会でも務めました。

初心者でも返しやすいボールを出し、みんなが楽しめることが第一。中学、高校時代と比べ関わる人数が多くなかで、自分がその立場だったらと考えて行動するようになりました。仲間と顔を合わせて一緒にボールを追えば、全身スッキリ。就活中も練習場所の小学校の体育館に駆けつけずにはいられません。

相手の立場で考え行動

就職する食品メーカーはユニークなアイデアの商品化に力を入れていました。事務職ですが、ゼミで学んだ商品開発の知識を生かせる機会があれば挑戦したいです。

松村 名那さん

二部マーケティング学科、大山雅嗣ゼミ、東京都第四商高

高校を卒業して就職しましたが、大学で勉強したい思いが募り、通信制大学や社会人入学などを調べるなかで専大の二部を知りました。両立できるのかという不安を「やらないで後悔するよりやって後悔しよう」と振り払いました。

仕事と両立 毎日が充実

お金と時間のやり繰りに苦心しながら教育学や心理学を学び、課題を提出し、同級生とスノーボードや旅行に出かけた大学生活。3年次までに必要な単位を取ろうと無理をしてダウンしたこともありましたが、毎日が本当に充実していました。大卒として電気設備工事会社で新たなスタートを切ります。真剣に学ぶ学生と一緒に、4年で卒業したことは私の誇り。大学で学んだことを生かしキャリアを重ねます。

都合により写真は掲載いたしません

秋山 恭介さん

日本文学文化学科、板坂則子ゼミ、山形県山形南高II花王カスターマーケティング

有意義だったのはゼミのインターネット授業で海外の学生と年数回、日本語で日本文学と文化について議論できたこと。先方の日本に関する知識と日本語力に圧倒されました。

優秀な彼らでも、育った環境や価値観の違いで理解できないことがあるのは意外でした。自分たちの発表で「水には何がれを清める意味がある」と説明したら「なぜ水なのか」と質問され答えに窮したことも。双方の文化的な背景を理解し、相手の視点で考える必要性を痛感しました。

海外学生とネット授業

営業職で勤務地は仙台。取引先のニーズを理解し、いかに自社製品とマッチングさせられるかが問われます。個人的なゼミ生の中で聞き役に回り、さまざまな意見を集約した経験を生かします。

大倉 有稀さん

歴史学科、大谷正ゼミ、東京都東大和南高II三井住友銀行

金融機関への就職を目指していた昨年の夏、自宅に近いターミナル駅にある3つの銀行の支店を回りました。説明会では「アポは不要。どんな来てください」とのこと。案内係の方に腰かけました。行員の方の表情や雰囲気、ベビーカーや車いすの貸し出しがあるか見回していると、ある支店で入行1年目の男性を紹介され、仕事の内容ややりがいと直接うかがうことができました。

銀行を見学 出合った縁

就活は山あり谷あり。タイピングにも左右されます。最終選考で落とされることが2回続いて落ち込みましたが結果的にご縁があったのは支店訪問で話が弾んだあの銀行でした。思い立ったときに行動することが大事だとかみめています。

都合により写真は掲載いたしません

近藤 智昭さん

ネットワーク情報学科、山下清美プロジェクト、千葉県千葉商高IIフジタ

卒業研究で「父と親子関係について調査したら、自宅通学の男子学生は家族とのコミュニケーションが希薄という結果が出ました。家族のありがたみは親元を離れて気づくもの。僕も一人暮らしを始めてから身に染みなので、家族のやり取りを密にする機能を論文の結びで提案しました。

寛大さに触れ成長できた

作業用品店での3年半のアルバイトは、カルチャーショックの連続でした。僕のミスで作業服の名入れの色や書体を間違えても、お客さんは寛大に「いいよ」「また来るわ」で終わり。快活で豪快な人たちのおかげで人と接することに抵抗がなくなり、成長したと感じます。システム担当として建設会社を志望したのは、多分に店での経験が影響しています。思いやりを忘れず、頼りにされる人間を目指します。

秦 祐里さん

ネットワーク情報学科、小林隆プロジェクト、東京都専修大学附属高IIみずほフインシャルグループ

高校までは吹奏楽部の練習あるのみ。大学ではいろいろな世界を体験しようとアルバイトを二つ掛け持ちし、趣味のトランプは地元の吹奏楽団で続けました。レストランの接客、音楽教室の受付、高校生や社会人との練習。さまざまな年代の人と接するなかで、将来はシステムエンジニアとイメージしていたのが、人と関わる仕事がしたいと思うようになった。授業の内容が会計やマーケティング、経営戦略、エンタメ系と多彩で知識が広がったこともあります。

バイトで社会経験積んだ

就職先には、専大出身で若くして管理職になった女性の先輩がいます。お会いして話を聞き「この人を目標に頑張りたい」と社会に出る意欲が湧きました。周りに目を配れる余裕ある人間に成長したいと思っています。

都合により写真は掲載いたしません

依田 峻弥さん

社会学科、今野裕昭ゼミ、全学応援団吹奏楽部、長野県上田桑谷丘高II日立フーズ&ロジスティクスシステムズ

応援専門の吹奏楽部でパーカッションを担当し野球部、アイスホッケー部、アメリカンフットボール部などのリーグ戦を選手と共に戦いました。目指したのは「勝たせる応援」。劣勢で沈んだ雰囲気を一掃できれば、良いプレーが出て勝利につながります。

勝たせる応援 選手後押し

サッカー部やアメフト部の躍進、野球部の東都大学1部リーグ優勝など思い出は尽きません。応援し続けた影響か、緊張した雰囲気や和らげる習性が身につきました。参加者がガチガチになっていた就活のグループ面談では、的外れなことを言って笑いを誘ったことも。リラックスしてみんなが力を発揮できるのが一番いいと思います。

八田 彩歌さん

社会学科、今野裕昭ゼミ、千葉県葉園台高II千葉銀行

接客と塾の講師。二つのアルバイトから目配りと会話の大切さを学びました。ホール係をしていたお好み焼き店では覆面調査員に應對を毎月審査されるのですが、評価が上がっていくのが励みでした。塾では生徒が自信を持つ話題を取り上げ、会話で信頼関係を築いてやる気を引き出しました。

覆面調査でやる気アップ

社会で責任を果たしてきた自信がありました。就職先では窓口業務を希望しました。就活の第一印象と正確で素早い対応が求められます。内定後、支店長を務める女性行員の方の気さくな人柄にふれ、いつか私もと憧れています。

都合により写真は掲載いたしません

土佐 巖人さん

博士後期課程修了生総代・3面参照

学部は日本文学専攻でしたが、哲学の授業が面白く、伊吹克己先生の知遇を得て大学院へ。専門は「フランス現代哲学と精神分析」。精神分析家ラカンの言葉は難解ですが、現代の生きづらさを見事に言い表している。悩んでいる人を哲学によって救うことができる。人に寄り添うことができる。人に寄り添うことができる。専門だと思いません。

「生きづらさ」救う学問

博士論文では伊吹先生の助言で、卒論のテーマだった三島由紀夫とラカンを取り上げました。昔の自分が助けてくれたかなと思います。行き詰まったときは、生田図書館分館から景色を眺めていました。総合体育館のジムで体育会の選手に交じって体を鍛えていたことも。学部から数えて14年間専大で過ごしました。今後も哲学の研究を続けていきます。

山本 隆彦さん

法科大学院修了者総代・3面参照

確かな資格をもち、人の役に立ちたい」と法曹を目指しています。大学は商学部で会計を学んだ「変わりダネ」ですが、そんな人間がいてもいいと思えました。他大学の法科大学院を修了して3年間司法試験に挑戦しましたが失敗。「初心に帰って鍛えなおそう」と経験豊富な先生と新進気鋭の先生が揃う専大法科大学院に入學しました。

再挑戦 合格を誓い研鑽

専大の魅力は、少人数による対話形式授業だと思います。先生方と院生との距離が近く、きめ細かな指導だからこそ可能になる。研究室のドアをたたきつつも時間をかけて質問に答えてくれる先生方の熱意には、本当に感謝しています。35歳になり「今度こそ」と合格を心に誓っています。研鑽を怠らない姿勢で、知的財産に強い弁護士になりたいと思っています。

都合により写真は掲載いたしません